

細井家住宅

所在地	上高田3丁目
用途	住宅
建築年代	安政4年以前
構造	木造平屋
設計者(施工者)	不詳

細井家は、上高田の農家の中でも江戸時代から続くとりわけ古い家柄で、現当主 細井淳一氏で17代となる。周囲が宅地化する中、木立に囲まれ、戦前におけるこの地域の農家の屋敷構えをよく残している。付近には鈴木家住宅（中野区上高田3丁目）があり、細井家とともに、縁多い上高田の風景を形作っている。

細井家主屋は、東向きに配され、敷地には納屋、井戸、稻荷社などが残されている。稻荷の祠には、豊川稻荷西大神宮が祀られている。主屋の東向きの配置の理由は不明であるが前述の鈴木家も同様に東向きである。かつては他に沢庵小屋があったという。

細井家の生業は農業で、かつては区内の他の農家同様、沢庵を作り出荷していた。屋号は『桶屋』である。淳一氏の父穏氏が共著で執筆した『ふる里上高田の昔語り』には戦前の行事、生活の様子が詳細に描かれている。

昭和2～3年と書かれた主屋の写真（P185）が残されている。これには茅葺き屋根が写り、棟は冠振瓦で茅を葺き下している。また、細井家にはメモ書きの記録が残されていて『現住母屋ハ安政四年留五郎ニヨリテ新築セシモノナリ 時に安五郎十九才ナリ 其レヨリ八十二年目昭和十三年萬五郎ハ桂土台ハ其ノ儘ニテ（一部分取替ル）大改築セルモノナリ時ニ穏二十六才』とある。留五郎は12代、安五郎は13代である。萬五郎は15代で淳一氏の祖父である。

穏は昭和15年に結婚して、茅葺き屋根の主屋の前で記念の集合写真を撮っている。この写真で

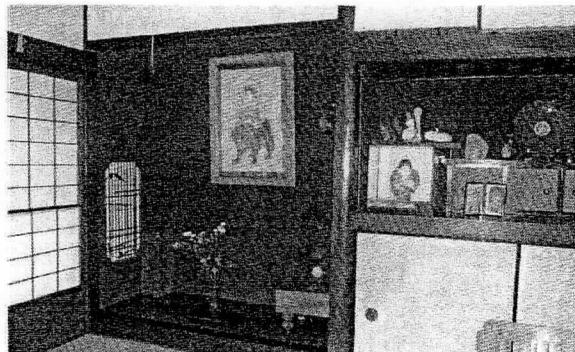
は下屋庇が廻り、縁の外にガラス戸を設けているので昭和13年の大改築が穏の結婚を予定した改築であったと想像される。

調査では屋根裏から幣串が発見された。『昭和廿九年四月拾九日』と書かれていて、この時点で茅葺き屋根を瓦屋根に変更したと考えられる。現在も小屋裏の上屋梁に叉首尻穴や真束の枘穴の痕跡を確認することができ、茅葺きであったことを証明している。

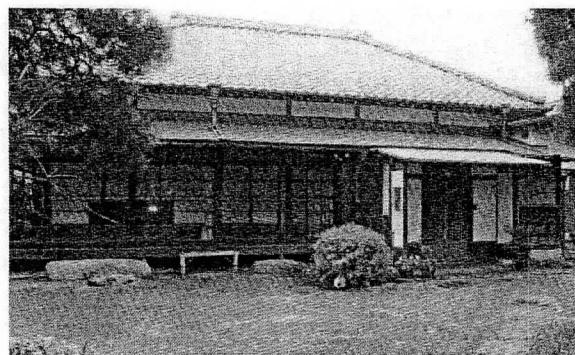
主屋は、木造平屋で寄棟造り日本瓦葺きである。間取りは東側に次の間・座敷の8畳2間があり、縁側が矩折に廻っている。座敷と次の間の境には差し鴨居が入り、次の間と玄関の間には大黒柱があり大坂障子で仕切られている。玄関より右手間口方向の3間が当初の土間と考えられる。当初は4間（上屋3間）×7.5間の直屋で、茅を葺き下ろす後方下屋造りで、後年、後方及び土間右手に増築を行い現在の形になったものと考えられる。震災以前江戸期の東京近郊農家の遺構であり貴重である。



玄関内観。左手に大坂障子があり、続きの座敷がある



主屋座敷床の間



主屋全景。東を向く

鈴木家住宅

所在地	上高田3丁目
用途	住宅
建築年代	明治時代移築
構造	木造平屋
設計者（施工者）	不詳

手入れの行き届いた屋敷林に、主屋、2棟の納屋、稻荷社、外便所が配されている。今も立ち並ぶ大ケヤキの一部は戦時中、造船用に供出されたという。昭和5年頃より近所に住んでいた童謡作家の異聖歌が、散歩で通る当家の風景を歌にしたのが、童謡「たき火」の歌である。

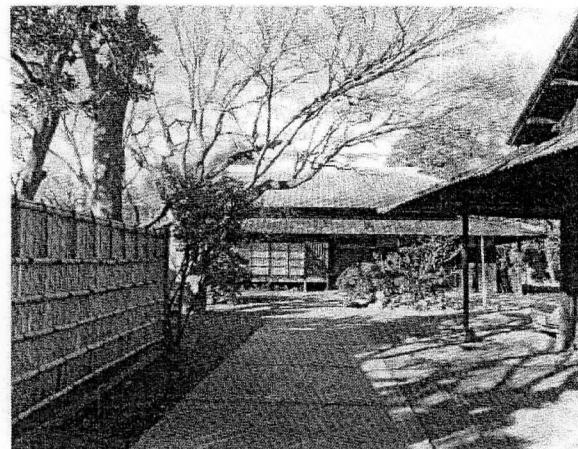
当家の屋号は清兵衛といい代々名主を務めていた。畑でとれた大根で沢庵を製造していた。沢庵を漬けていた納屋が敷地入口横に建っているが、戦前は西側の道を隔てて漬物用の納屋が何棟もあったそうである。

東を正面とする主屋は、明治時代前期に現・豊島区椎名町より移築されたと伝えられている。小屋裏にあった幣串には「昭和15年改修」とあった。当初の茅葺屋根を瓦葺きに替えるなど手を加えたようである。現当主が覚えているのは昭和39年頃の改修工事で、台所を改造し、南西に祖父母の離れが建て替えられ主屋とつなげられた。

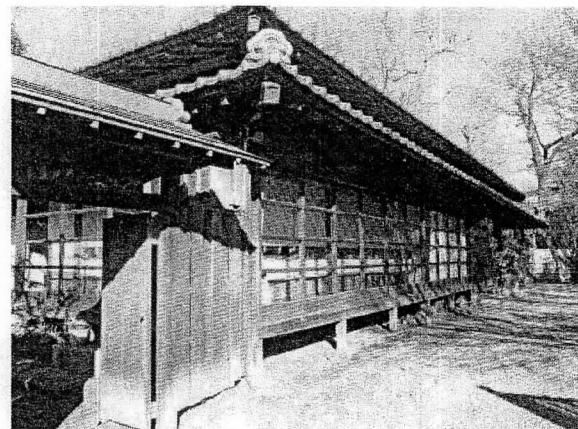
平面は桁行9間半、梁間4間半で、縁が東から南に廻り奥の離れへ接続する。柱の風喰から元は外縁であったと思われる。玄関は改造され建具や収納によって仕切られているが大戸は残されている。北側土間はそのままで奥は台所を土間に張り出し改造されている。台所には漆喰塗りの天井が作られているが曲がり梁の下面が見えている。土間には竈があり煙出しも残されている。

座敷が4つあり、奥の2部屋の間に3畳間がある。仏間の裏に床を90mm下げて納戸が増築されている。板壁を一部へこませて床の間風にしているが、その裏は仏間の床脇なので奥行きを分けている。

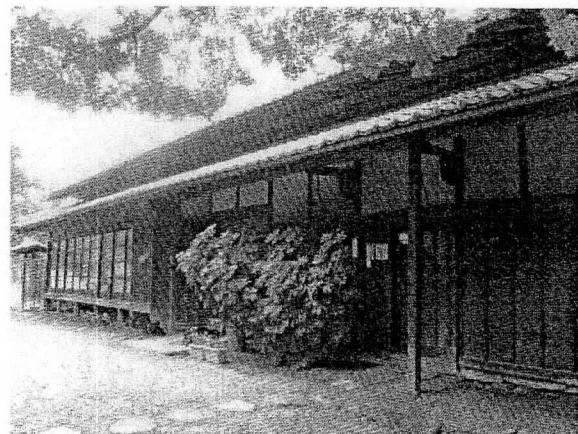
広い屋敷を維持管理するのは大変であるが当家では農業をしなくなった現在も数々の年中行事が受け継がれている。農家の遺構として大変貴重である。



主屋東外観、右手が納屋



主屋外観、東南より見る



主屋外観、北東より見る